

学習機能について（案）

- 論点1：ターゲットとして、誰を想定するか。
 - 幅広い層が国立公文書館の果たす役割について理解を深めることができる…（基本計画 P3）
 - …小中高生、大学生・大学院生、シニア層等幅広い層を対象とした多彩なプログラムの提供を行う。（調査検討報告 P8）
- 論点2：どのようなプログラムを提供するか。
 - 幅広い層が国立公文書館の果たす役割について理解を深めることができる見学・体験ツアー（基本計画 P3）
 - 保存・修復等の作業を実際に体験できるような学習プログラム（基本計画 P3）
 - 文書を残すことの意味、保存・修復等の作業を実際に体験できるような学習プログラムの開発を進め、小中高生、大学生・大学院生、シニア層等幅広い層を対象とした多彩なプログラムの提供を行う。……（調査検討報告書 P8）
 - 国立公文書館の活動を支える基幹的な業務（保存・修復等）について見学・体験できる施設内見学ツアーを実施する（調査検討報告書 P8）

【ターゲット／学習プログラム とりまとめ案】

小中高生、大学生・大学院生、シニア層、教員等幅広い層に対し、それぞれの特性に合わせたコンテンツを提供することで、国立公文書館の果たす役割について理解を深めてもらう。特に、小中学生は学校のカリキュラムの進捗などにも留意する。

また、各ターゲットのプログラムの実施に当たっては、実施時間・曜日等を調整して、ターゲット毎の参加のしやすさに配慮する。

①見学・体験ツアーや、②公文書管理の意義や重要性に関する学習、③体験支援室での保存・修復等の作業の体験・学習プログラム等、各層の訪問時間や理解度、興味関心に合わせて選択できる多彩なプログラムを提供する。企画にあたっては、公文書と社会的なテーマとのつながり、訪問者とのつながりが分かりやすいよう留意する。

その際、諸外国の公文書館等の先行事例も参考に、基本設計で示された平面計画・動線計画等も踏まえて、適切なプログラム構成を検討する。